

流通科学大学における Moodle を利用した 多言語学習環境の構築と運用

Development and Application of a Multi-Lingual Learning System with Moodle at UMDS

山本 勝巳^{*}、藺 梅[†]、田村 弘行[‡]
Katsumi Yamamoto, Mei Lin, Hiroyuki Tamura

2011 年度のカリキュラムに対応した「英語」向け Moodle を中国語・フランス語という他言語教育に利用するべく、科目担当教員による環境構築が 2015 年度より開始され、現在これらの言語向け教材サイトの構築が一応の完成を見た段階である。本論文では、中国語・フランス語サイトの構築方針や具体的作業、受講生による利用の現状や今後残されている課題について、科目担当者の立場から報告する。

キーワード： Moodle, 中国語教育, フランス語教育

I. はじめに

流通科学大学における Moodle を利用した学習環境の構築は、2011 年度のカリキュラム改定に対応する形で始まった¹⁾。当該カリキュラムにおいては 4 セメスターまで必修科目であった「英語」で利用する教材内容が確定したのが 2013 年度であり、この時点で入学時のプレースメント・テストから 2 年間の必修科目を受講後に受験する到達度テストまでの一貫した英語教育体制が構築された²⁾。

その後、サーバの管理業務や、全入学生の短期間でのシステムへの登録、日々のログ管理といった Moodle に関わる管理業務が、学内情報システムの管理を担当する「流科サービス」へと移管された³⁾。これにより、主に教材開発に関する部分のみを科目担当者が担当する形となって、科目担当者の負担は大きく軽減されることとなった。

Moodle について「Web ベースの学習管理システム (LMS: Learning Management System) の一種」

^{*}流通科学大学商学部, 〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

[†]流通科学大学人間社会学部, 〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

[‡]流通科学大学商学部, 〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

(2016 年 12 月 14 日受理)

©2017 Center for Promotion of Higher Education

という説明がなされることが多い⁴⁾。より一般的な言い方をすれば、「LAMP (Linux + Apache + MySQL + PHP) と呼称される環境下で利用可能な CMS (Contents Management System) の一種」となるだろう。一般のオンラインショッピングサイトに見られるように、ウェブ上に掲載されるアイテムやアクセスする利用者 (Contents) について、データベースによる管理 (Management) を行うシステムであり、Moodle 上で管理されるのはアップロードされた教材ファイルや利用者の学習履歴 (Learning) ということになる。

システムの多言語対応がなされており、アクセスするクライアントについてもマルチ環境に対応しているといったメリットがある⁵⁾。また上に書いたように管理業務と教材開発業務を分離するために、「管理者」・「コース作成者」・「学生」といった役割の区別を導入している点も、ICT 技術に必ずしも詳しくない教員を含む運用業務に役に立つところである。学習管理に重きを置いているために、このシステム下では教材の配布・小テストの管理 (作成・出題・採点)・出席管理・レポート提出・学生同士の議論や協働作業等がスムーズに行われるよう、細かな調整が行われている。これらの活動はいずれも英語学習のみに特化した内容ではない。そのため、国内に限っても、外国語のみならず様々な領域への利用実績が報告されている⁶⁾。

流通科学大学における英語学習への Moodle の導入は、「経済と教育のグローバル化」という外的要因だけでなく、基礎的な語彙や文法知識を理解していない学生が増加しているという内的要因にも拠っている²⁾。つまり、こうした学生に対して、基礎的な語彙や文法知識への習熟を図るとともに、単位認定の前提となる授業外での学習時間の確保と、学習習慣の確立を意図した面もある。こうした内的要因は流通科学大学においては、英語だけに当てはまるものではない。外国語科目に限定しても例えば、多くの学生にとって初習外国語となる中国語やフランス語においても同様の需要があるものと考えられる。

また 1 年前期開講の「言語と社会」履修登録を円滑に行うために、新入生オリエンテーションから講義第 1 週目までの短期間に当該科目履修の可能性のある新入生ほぼ全員を Moodle 上に登録する作業を行っている。これだけの規模のデータベースを 1 年後期開講の選択科目「英語 A」だけの利用にとどめるにはあまりにももったいないという心情的な理由もあって、他言語を含めて利用範囲を再検討することとした。

しかしながら、Moodle の英語以外の外国語学習向け利用マニュアルは、少なくとも国内においてはまださほど多くないのが実情であり⁷⁾⁸⁾、導入に対して科目担当者の積極的な取り組みが求められた。本学においては、中国語担当とフランス語担当の専任教員が講義への利用について意欲を持っていたため、教務部・流科サービスにも助力を仰ぎつつ、各言語向けサイトの構築を行うこととした。

実際の利用手順は以下のような流れである。各言語に共通するセメスターごとの作業として、履修登録から開講までの期間に履修者の登録作業を行う。この作業について、筆者 (山本) がタ

イミングを計り、教務部と流科サービスの間で名簿データのやり取りが行われる。Moodle への登録作業は流科サービスに担当いただいている。科目担当者は、「担当する科目 (=コース) 内で活動の変更および学生の評定を含むどのような作業でも行うことができる教員」としてコースに登録されており、基本的に他の科目 (=コース) の編集はできない。

本稿は各言語教育でのこれまでの取り組みについて、個別の報告を意図している。なお、担当者の意向として、中国語科目については、授業外で利用できる教材の配布場所としての利用をメインに、講義内でのタブレット端末の利用と組み合わせて利用する方向で構築を進めている。フランス語については、講義内で利用可能な教材や小テストの実施・その評価を主たる用途として作成を進めている。

II. 中国語向けコースの構築

1. 中国語教育における Moodle の必要性

2015 年度より中国語は選択科目に変更された。以降、受講者にとって履修科目を自由に選択できるというメリットがある反面、学習の継続性が欠けることとなり、受講時間も激減している⁹⁾。この状況の中で限られた期間内に語学能力を一定のレベルに達成させるとともに認定単位に妥当性を持たせるためには、講義時間外での自主学習が不可欠となると考えた。そこで中国語科目のうち、筆者（蘭）が単独で担当する「中国語グローバル」と「中国語資格試験準備 (A・B)」の科目において Moodle サイトの利用に取り組むことにした。なお、「中国語グローバル」は後期開講の 1 単位科目、「中国語資格試験準備 (A・B)」は前期・後期開講のそれぞれ 2 単位科目である。

2. 「中国語グローバル」科目での利用状況

「中国語グローバル」は 2015 年度にスタートしたグローバル・スタディーズ・プログラムクラス（以下 GSP クラスと称する）に対して提供される科目である。GSP クラスの一番の特徴は英語と中国語の 2 言語を同時に学ぶ点にある。ただしこのクラスの中国語学習では、実質的な学習期間は 1 年後期から 2 年前期までの 1 年間のみである。さらに 1 年後期には週に 2 回の講義があるが、2 年前期になると週に 1 回しかない。しかしながら、この期間内に「中国語検定試験」4 級のレベル（中国語検定協会公式サイト¹⁰⁾）によれば「学習時間 120～200 時間。一般大学の第二外国語における第一年度履修程度」が求められる）を達成することが目標となっているため、講義時間外での予習・復習及び検定試験についてのトレーニングが必須条件となった。それらに関する課題や音声データなどの提供に現在 Moodle サイトを利用している。

図 1 の通り、限られた講義時間内においては、新しい知識を与えることとその習得状況を確認することがメインとなるものと考えた。そこで、その知識に習熟するために Moodle により講義外での学習を行うようカリキュラムを設計した。第一段階として教科書の内容や講義に関連する補助資料の配布に Moodle を利用することとした。この段階での Moodle 利用の大きな利点は、学

生が講義資料や配布資料をいつでも入手でき、教員も配布したいものをいつでも学生に届けられることである。

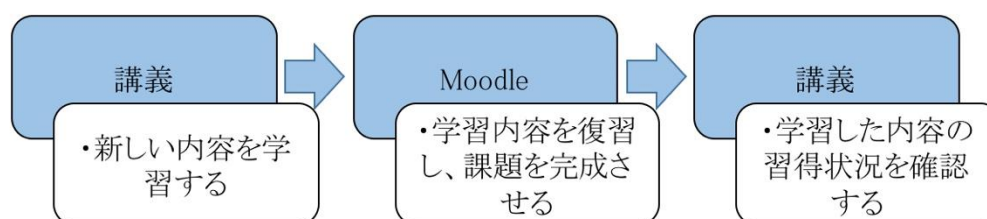


図 1. 中国語学習における初期の Moodle 利用のイメージ

3. 「中国語資格試験準備（A・B）」科目での利用状況

「中国語資格試験準備（A・B）」も 2015 年度からの新しいカリキュラムで新規開講された科目である。2 年対象ということで実質的には 2016 年度前期からの開講科目であるが、2016 年度においてはこの科目を 21 名の受講生が履修した。科目名が示す通り中国語資格試験合格を目標にする受講生が多く、彼らの希望に対応して本格的な受験訓練を行うこととした。

中国語資格試験（「中国語検定試験」4 級）については以下のように公表されている¹⁰⁾。目標は、「平易な中国語を聞き、話すことができること」とされ、求められる学習量は前述の通りである。試験の内容は「発音（ピンイン表記）及び単語の意味、常用語 500～1,000 による単文の日本語訳・中国語訳」とされている。合格基準はリスニング 60 点、筆記 60 点以上とされている。

このうち、受講生にとって大きなハードルとなるのはリスニングである。日本語母語学習者の中国語リスニングへの習熟に関して、リスニング能力を伸ばすには時間外の自習スタイルの確定が必要だと筆者（藺）は考えている¹¹⁾。Moodle の利用が可能となって、Moodle を授業に連携させ受講生による講義時間外でのリスニングの個別訓練が実現できた。即ち、講義時間内に行ったリスニング訓練用音声とステップアップ用音声とを Moodle 上にアップロードして、受講者がいつでもどこでも繰り返し聞くトレーニングができるようになり、受講生の時間外の自習が可能となった。

4. Moodle サイトの利用についての今後の課題

GSP クラスの授業では、アクティブラーニング教室を利用してグループワークの形式での能動的な学習を試みている¹²⁾。初年度の報告では、先行研究を踏まえて「アクティブラーニング」を「教員が一方的に受講者に知識伝達をする講義ではなく、学習者が主体として学習内容や問題の解決方法などを考え取り組むこと」と定義した上で、グループ学習を利用したアクティブラーニングという授業形式に対して肯定的な結論を出した¹³⁾が、課題も残っている。それはグループ学習を行うには予想以上に時間がかかり、習得させるべき内容の伝達を 90 分以内にクリアするのが非常に難しいことである。そこで次の段階として検討しているのは Moodle の導入による次のような「反転授業」的な講義運営である。

「反転授業」とは、先行研究によれば「従来教室で行われていたことを自宅で行い、自宅で行ってきたことを教室で行う教授方法」と定義されている¹⁴⁾。これを上の図1に組み込めば、次のようなイメージでとらえることができるだろう。

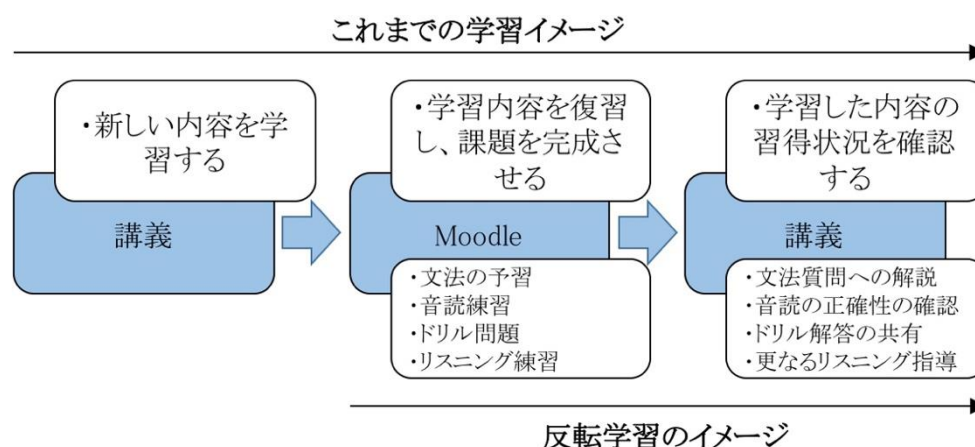


図 2. Moodle を利用した反転授業スタイルのイメージ

こうした授業スタイルを徹底していくことで、これまで講義の中で多くの時間を取られていた単純な文法説明については極力簡素化し、より実践的な訓練に講義時間の多くを割り当てられるようになるのではないかと期待している。

より具体的な利用方法として考えているのは次のような内容である。

a. 文法の予習について

GSP クラスでは、まず受講者に新しい文法項目の予習をさせ、自力で解決できない項目を質問として授業までに Moodle に提出する。教師が授業でその質問についての解説を行い、受講生全員に共有する。こうすることで効率よく文法学習をすることができると考えている。一方で、こうした講義スタイルに対応する文法問題の作成について科目担当者の負担が大きくなることも想定される。

b. 講義外での音読練習

語学の習得には「読む・書く・聞く・話す」の四項目について質量ともにできる限りトレーニングすることが望ましいが、限られた授業時間数で上述の「中国語検定試験」4 級レベルの練習時間を担保することはほぼ不可能なため、Moodle を利用した講義外での練習は不可欠だと考えている。特に母語話者による録音によって、いわゆる「authentic な」音声を受講者に提供できることは大きな利点である。

c. ドリル問題による課題提出

語学学習において、新しい知識を定着させるには練習問題を数多く解答することも必要である。出題の工夫により、学習者に高いモチベーションを保たせながら自己判定を行わせることができ

る。例えば、出題形式は工夫の一つである。Moodle では、○/×問題や多肢選択問題といったクイズの形式や問題・選択肢のシャッフルなどに対応できるので、今後大いに利用しようと考えている。

d. リスニング練習

上に述べた通り、日本語母語学習者が中国語資格試験に合格するための一番のハードルはリスニングである。これは教室のみにおける外国語学習の従前からの課題であるが、Moodle を利用することにより、受講者はリスニングのトレーニングが望むだけできるようになる。なお、この利点は「中国語資格試験準備」の受講者に対しても当てはまるものである。

さらに GSP クラスでは基礎知識の習得後、グループに分かれてタブレット上でアプリケーションを利用したスキット作成とその発表といった実践的な内容も予定している。こうした学習を Moodle を利用した個別学習と組み合わせることで、学習がより深まることも期待したい。

III. フランス語向けコースの構築

本章では、本学のフランス語教育における Moodle 利用について記述する。本学のフランス語教育においては、選択科目である「フランス語入門」と「フランス語初級」の授業内で利用するための教材および学生が授業外で学習するための教材を置くため、また小テストの実施・その評価を主たる用途として Moodle を利用している。教材の配置は、筆者（田村）が共著で作成した教科書『フランス語で「ようこそ」』¹⁵⁾の学習項目の進行に準じている。この教科書の構成は、ディアローグ（会話スキット）、文法説明、文法問題となっている。以下の節では、実際にいかなる種類の教材、小テストを配置しているのか、またその利用方法について述べ、さらに Moodle 利用の利点について述べる。

1. 教材

本節では、教材として、音声、PowerPoint 教材、URL リンクについて述べる。

参考のため、例として下記に 10 月 20 日（図 3）と 11 月 17 日（図 4）のページを示す。

4e Leçon, le 20 octobre

本日のテスト

小テスト③ 性の区別 聞き取り
小テスト④ あいさつ

✓ 小テスト③ 性の区別 聞き取り 本番

✓ 小テスト④ あいさつ 本番

p.7 ディアログ練習

📄 L.1 Enchantée! 記憶用 PowerPoint

p.12 Leçon 2 Grammaire 2 不定冠詞 説明

📄 quizlet 不定冠詞の練習

Exercices 2A-2 練習

p.12 Leçon 2 Grammaire 2 定冠詞 説明

📄 quizlet 定冠詞の練習

Exercices 2A-3 練習

📄 本日の 面白サイト LanguageGuide.org

10/27 小テスト③④受験希望者は授業終了後に再テストします。

7e Leçon, le 17 novembre

本日のテスト

小テスト5 Exercices2A-1 être

小テスト6 Exercices3A-1 第1群規則動詞

📄 être 直説法現在

✓ 小テスト⑤ Exercices2A-1 本番テスト

📄 第1群規則動詞(er 動詞) 直説法現在

✓ 小テスト⑥ Exercices 3A-1 本番テスト

p.16 Grammaire 3 ②avoir 直説法現在 説明

📄 avoir 直説法現在

📄 quizlet avoir

📄 Mlle Feronne A Le Verbe Avoir

✓ 小テスト⑦ Exercices 3A-2 次回はシャフル版テスト

Grammaire 3 ③疑問文説明 音声

📄 Exercices3A-3 提出

次回のテスト

小テスト⑧ Exercices3A-2

図 3. 10 月 20 日の授業ページ

図 4. 11 月 17 日の授業ページ

a. 音声

前掲の教科書のために録音された音声は、主に各レッスンのディアログと文法説明に関する音声であるが、教科書を購入した者のためにネットで配信されている。本学の Moodle 利用は当該科目を受講登録し教科書を購入した受講生のみに限定されているので、Moodle 上にもアップしている。学生個人がネットからダウンロードした音声ファイルの中から必要な音声を探すより、各レッスンに細分化してアップされている Moodle 上の音声の方がアクセスが容易であるからである。また、授業内でも利用が容易である。学生は大学の PC、学生のスマートフォン・PC など、どこからでもアクセス可能である。

b. PowerPoint 教材

各レッスンのディアログは毎回暗記を課している。暗記を容易にするため、図 3 の L.1 Enchantée!記憶用 PowerPoint のように記憶用の PowerPoint ファイルを置いている。各レッスンのディアログを PowerPoint で日本語のみ→フランス語（音声同時再生）の順にせりふ毎に作成してアップしている(図 5)。

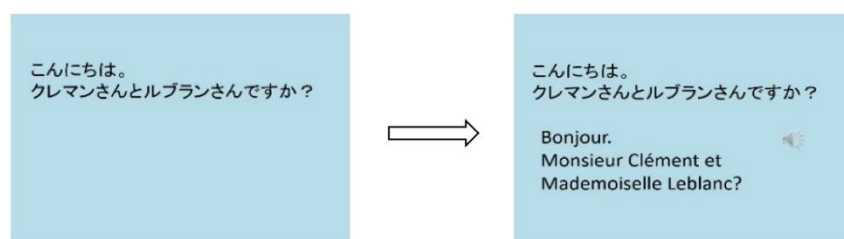


図 5. ディアログ記憶用 PowerPoint の例

授業時には、この PowerPoint 教材をプロジェクターおよび学生のコンピュータに映し、全員で発音しながら暗記する練習をしている。その授業の 1 週間後に暗記確認のための小テストを実施している。小テストは、日本語のみの画面を見せてフランス語を同時に録音したいのであるが、録音機器の故障などで録音がうまくいかない学生がいることがあるので、現在は日本語にあわせて、()内にフランス語の適語を入れる筆記テストを行っている。学生は、授業外でこの PowerPoint 教材を利用し学習することになる。

また、ディアログ以外にも動詞活用の PowerPoint 教材を作成して Moodle にアップしている。主語ごとに動詞活用を示し学生自らが記憶確認できるように作成している。動詞活用の PowerPoint 教材も、授業時に利用するとともに、学生が授業外で暗記するために利用されている (図 4 être 直説法現在、avoir 直説法現在)。

c. URL リンク

ネット上には、Youtube、Quizlet、大学や語学学校のフランス語教員が作成しているサイトなどに、非常にすぐれた教材が数多く存在している。各レッスンで学んだ項目に関連したサイトの URL を置いておくと、やる気のある学生、優秀な学生には発展学習の可能性がある。

例えば、10 月 20 日 (図 3) に、定冠詞を学んだ時は、図 6 に示したような LanguageGuide.org が作成しているサイトの URL¹⁰⁾を Moodle 上においている。学生はクリックするだけで、そのサイトにアクセスできる。様々な物の絵があり、その絵にカーソルをもっていくと “le chapeau” (帽子) のように、定冠詞のついた物の名前が音声とともに現れる。この場合、帽子という日本語は現れない。日本語を介さずに物の名を覚え、その名詞が男性名詞なのか女性名詞なのかを知ることができ、定冠詞を確認することができる。また自分でテストできるようにも工夫されている。このようなサイトは、授業の合間に休憩をかねて見せる・聞かせることもできる。授業で学生が文法説明を聞き、少し集中力が弱まった時に、このようなゲーム感覚をともなったサイトは学生に刺激を与え、学習意欲を向上させる効果がある。Moodle は学生がアクセスした時間や項目を教員がチェックできるのであるが、授業内ばかりでなく、授業外においても気に入ったものに何度もアクセスしている学生が見受けられた。



図 6. LanguageGuide.org ・ French の les vêtements masculins

その他の例として、動詞 *avoir* について学んだ時は、quizlet で *avoir* について数多くのクイズのうち入門時の日本人学生に適したクイズを選び、その URL¹⁷⁾を置いている。さらに、Youtube に “*Mlle Feronne a le verbe Avoir*” という *avoir* を記憶するための歌が動画とともにアップされているので、その URL¹⁸⁾も置いている。軽快な音楽とともに *avoir* を記憶する歌を視聴できる楽しいものである。これらは授業の合間に休憩をかねて紹介し、授業外でも学生が利用するよう促している。

2. 小テスト

Moodle には、コースを作成するために、「活動を追加する」項目として、小テスト、課題、調査、投票など様々なものがある。本学のフランス語コースでは、もっぱら、小テストと課題を利用している。Moodle の小テストには、○/×問題、多肢選択問題、記述問題など様々な種類の小テストを作成するモジュールがある。本学フランス語コースにおいては、主に多肢選択問題、記述問題を作成している。問題としては、まず前掲の教科書の文法問題(Exercices)を作成している。

教科書の Exercices 以外にも、問題を作成しているが、Moodle の利点としては、音声を入れて問題を作成できることである。10月20日(図3)は、小テスト③ 性の区別、小テスト④ あいさつを実施している。小テスト③は、例として、男子学生 *étudiant* と女子学生 *étudiante* のいずれかの音声を聞き、どちらであるかを答える問題である。小テスト④は、フランス語のあいさつの表現を聞き、その意味を選択肢から選ぶ問題である。Moodle 導入以前は、全体で一斉に音声を聞かせ、学生全員が同時に答えるスタイルであった。しかし、この場合、残念ながらカンニングの恐れがある。Moodle では、問題をシャッフルでき、隣り合う学生と同じ問題であるとは限らないので、カンニング防止の効果がある。

小テストは、前の週に文法説明の後、一旦練習として受験させている。その際、問題をシャッ

フルせずに受験させ正解を示し解説している。この場合、点数評価はしていない。点数評価は、次の週に実施する1回限りのシャッフルした小テストで行うので本番まで練習しておくようにと指示している。案の定、授業外に何度もアクセスし練習している学生が見られた。

また、小テストを作成しにくい問題は Moodle の「課題」というモジュールで課題提出させている。11月17日（図4）では、「Exercices3A-3 提出」を課題としている。WORD ファイルの問題を学生自らダウンロードし、解答した WORD ファイルをアップロードするものである。

3. Moodle 利用の利点

以上、本学のフランス語教育における Moodle 利用について述べてきた。上述してきたことと重複するところはあるが、本節では、Moodle 利用の利点について述べてみたい。

まず、教材はネット上にあるため、学内 PC からはもちろん、学生のスマートフォン・PC からもアクセスでき、いつでもどこからでも学習が可能である。音声に関しては、これまでも CD などで学習は可能であったが、学生はより気軽にアクセスできる。また、音声、PowerPoint 教材などを学生のスマートフォンにダウンロード可能であり、ネット環境がない場合も学習可能のものがある。さらに、欠席した学生は、欠席時の授業の内容を知ることができ、次の小テストおよび宿題について等を確認することができる。

授業で学んだ内容と関係するネット上の教材の URL をおいておくと、やる気のある学生、優秀な学生には発展学習の可能性がある。教材ばかりでなく、学習内容と関わりのある YouTube のコンテンツ、フレンチポップスの URL も置いておくこともできる。これらは授業の合間に休憩をかねて見せる・聞かせることもあるが、授業外で気に入ったものを何度も視聴している学生が見られた。

問題をシャッフルできるので、授業時に実施したテストを次回授業時にも再テストすることができる。その再テストを点数化すると伝え、授業外で何度もテストを繰り返して学習している学生が見られた。また、隣り合う学生と同じ問題であるとは限らないので、カンニング防止の効果がある。

学生がいつ何をどの程度学習したか、また小テストの点数を教員は把握することができる。学生個人レベルで把握することもでき、各問題にたいしてクラス全体の理解度も把握することができる。

このように Moodle 利用には、多くの利点がある。しかし、教材作りには多くの時間が必要であることは覚悟しなければならない。また、コンピュータだけの無機質な授業にはならないように注意する必要があるだろう。語学教員は、語学学習をとおして人とのコミュニケーションを教える職業でもあるのだから。

IV. 結び

本稿では流通科学大学における英語教育に利用されてきた Moodle システムを他言語の学習に利用すべく環境構築を行ってきた近年の流れについて、それぞれの科目担当者からの報告の形でまとめた。各教員がそれぞれの講義目標に対して、試行錯誤しながら適切と思われる教授内容を組み込んできた作業履歴が辿れるものとなったのではないかと考える。一方で、課題内容の適切さ評価や具体的な受講生の履歴データなど量的な分析はまだ手つかずという状況であり、今後はこの部分に注視した評価作業を進めていく必要があるものと考えている。

謝辞

本報告の一部は平成 27 年度流通科学大学教育実践推進費の助成を受けたものである。また、教務部前川亮氏・早崎尚宏氏（平成 26 年 3 月まで：現学生部）・流科サービス三好康太氏はじめシステムスタッフには管理業務で業務を超えるほどの多大なご尽力をいただいています。記して感謝します。

引用文献、注

- 1) 山本勝巳、東淳一、住政二郎：「ブレンド型英語学習環境の構築と実践」、『流通科学大学論集—人間・社会・自然編—』24(2) (2012) 33–37. Retrieved from <http://id.nii.ac.jp/1056/00000104/>
- 2) 住政二郎、トーマス・シャロー、中川典子、藤岡千伊奈、濱田真由美、山本勝巳：「流通科学大学における英語教育フレームワークの構築と実践」、『流通科学大学附属教学支援センター紀要』, 1, (2014) 49–60. Retrieved from <http://id.nii.ac.jp/1056/00000397/>
- 3) このタイミングで、サーバ環境がそれまでの仮想サーバから物理サーバへと変更された。
- 4) 中西大輔・大澤真也（編著）：『Moodle 事始めマニュアル』.(2013) 中西本店.
- 5) 2016 年度後期途中からスマートフォンからのアクセスに試験的また限定的に対応している。
- 6) Moodle.net: Registered sites. (n.d.). Retrieved October 24, 2016, from <https://moodle.net/sites/index.php?country=JP>
- 7) 例外的な資料として、共通教育科目「フランス語」用 e ラーニング教材の開発. (n.d.). Retrieved October 24, 2016, from <http://idoffice.cite.chime-u.ac.jp/ict/gp/2015/france.pdf>
- 8) 同じく例外的な資料として、田中雅敏：「Moodle による独検対策 e ラーニング環境の構築とその運用」、『東洋法学』54(1) (2010) 322–303. Retrieved from <http://id.nii.ac.jp/1060/00000778/>
- 9) それまで 4 セメスター 8 単位（必修）であったものが、1 セメスター 2 単位（選択）へと変更となった。
- 10) <http://www.chuken.gr.jp>（中国語検定協会公式サイト）
- 11) 藺梅：「中国語の授業における指導法に関する一考察」『流通科学大学論集—人間・社会・自然編—』, 第 28 巻(第 1 号), (2015) 43–52. Retrieved from <http://id.nii.ac.jp/1056/00000446/>
- 12) この科目については 2016 年度後期以降 OCW（オープンクラスウィーク）で見学を許可している。
- 13) 藺梅：「中国語の授業に取り組むアクティブ・ラーニングの試み」『流通科学大学論集—人間・社会・自然編—』, 第 29 巻(第 1 号), (2016). 109–116. Retrieved from <http://id.nii.ac.jp/1056/00000498/>
- 14) 森澤正之：「反転授業を組み合わせたアクティブ・ラーニングの取り組み」『大学教育と情報』150(1), (2015) 2–7. Retrieved from http://www.juce.jp/LINK/journal/1503/pdf/02_01.pdf
- 15) 田村弘行・田村奈保子：『フランス語で「ようこそ」 Bienvenue en français』(2015) 三修社.
- 16) French Vocabulary - LanguageGuide.org Retrieved December 6, 2016, from <http://www.languageguide.org/french/vocabulary/>
- 17) Flashcards avoir | Quizlet Retrieved December 6, 2016, from <https://quizlet.com/104840453/flashcards>
- 18) Mlle Ferrone A Le Verbe Avoir – YouTube Retrieved December 6, 2016, from https://www.youtube.com/watch?v=puUFkMr_GyU&feature=youtu.be

付記

本論文は山本・藺・田村により以下の通り執筆を分担した。

I. はじめに、IV. 結び：山本、II. 中国語向けコースの構築：藺、III. フランス語向けコースの構築：田村。